

アーバンネイチャー北九州 「ネイチャーポジティブ宣言」

北九州市は、三方を響灘、関門海峡、周防灘と特徴の異なる3つの海に囲まれ、市域の約4割を森林が占めるとともに、曽根干潟や響灘ビオトープなど、全国的にも希少な生きものの生息地があり、工業都市、産業都市でありながら、都市に近接した豊かな自然「アーバンネイチャー」にあふれるまちです。

近年、生物多様性を取り巻く環境は劇的に変化しており、今や、生物多様性の損失を止め回復軌道に乗せる、いわゆる「ネイチャーポジティブ」が、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーと並ぶ、地球規模の課題となっています。

北九州市は、高度経済成長期において、日本の産業発展に大きく貢献した一方で、大気汚染や水質汚濁など、全国でも例のない甚大な公害に見舞われました。これを、市民、企業、行政が一体となり環境改善に取り組むことで、青い空、青い海を取り戻し、公害を克服しました。こうした北九州市の環境行政の転換期そのものが、「ネイチャーポジティブの歴史」です。

こうした国際動向や北九州市の歴史背景を踏まえて、本日、「北九州市生物多様性戦略」を改定しました。その中で、産官学民が一体となり「アーバンネイチャー」を守り育むことで、「ネイチャーポジティブ」へ挑戦し、「都市と自然との共生」という「ネイチャーポジティブのグローバルモデル」を目指すこととしております。

それぞれの主体が連携してネイチャーポジティブに取り組むことで、アーバンネイチャーを未来の世代に引き継ぐとともに、「世界をリードするサステナブルシティの実現」を目指して、ここにネイチャーポジティブを宣言します。

令和7年5月22日

北九州市長 武内 和久